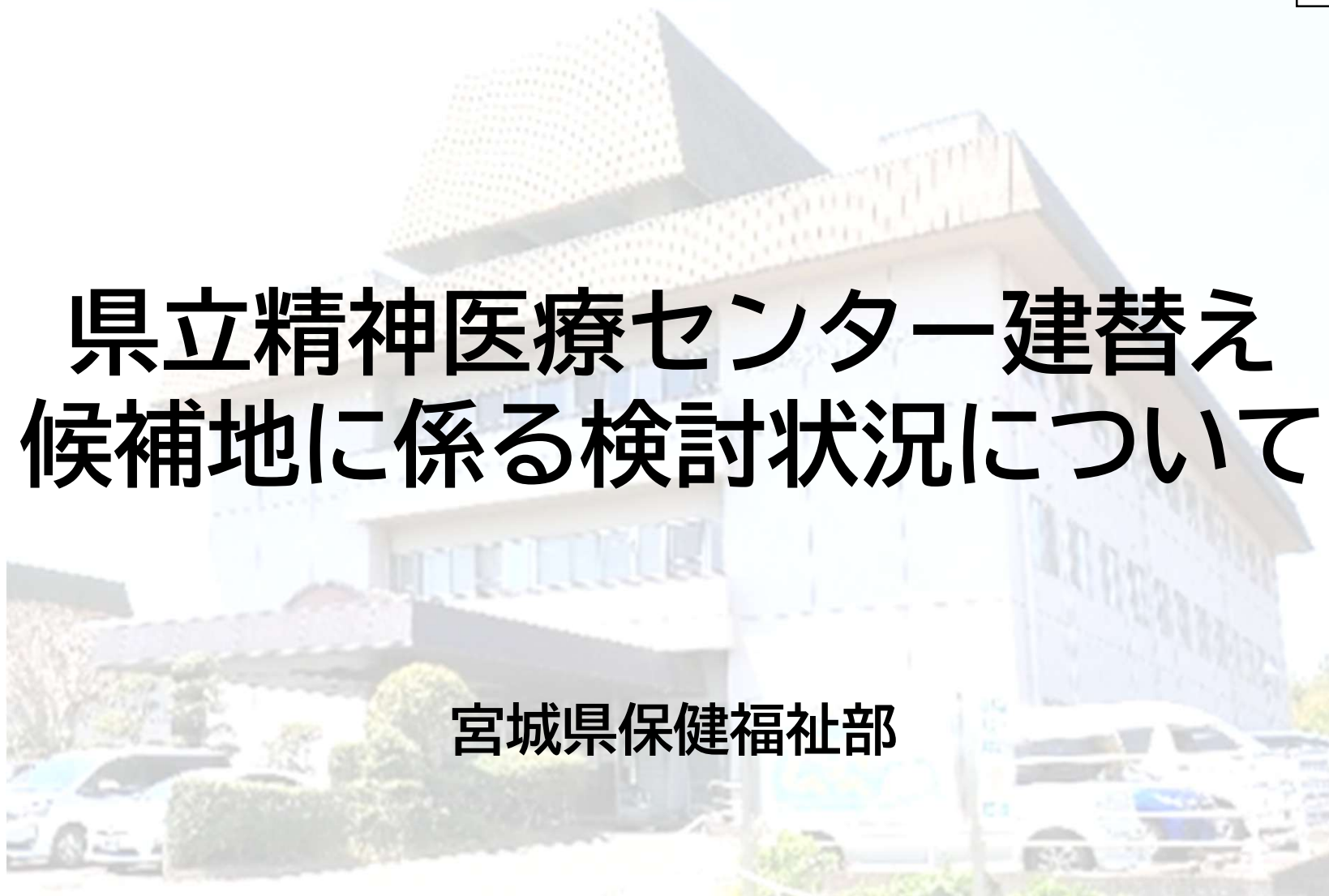







県立精神医療センター建替え 候補地に係る検討状況について

宮城県保健福祉部



県立精神医療センターの建替え候補地について

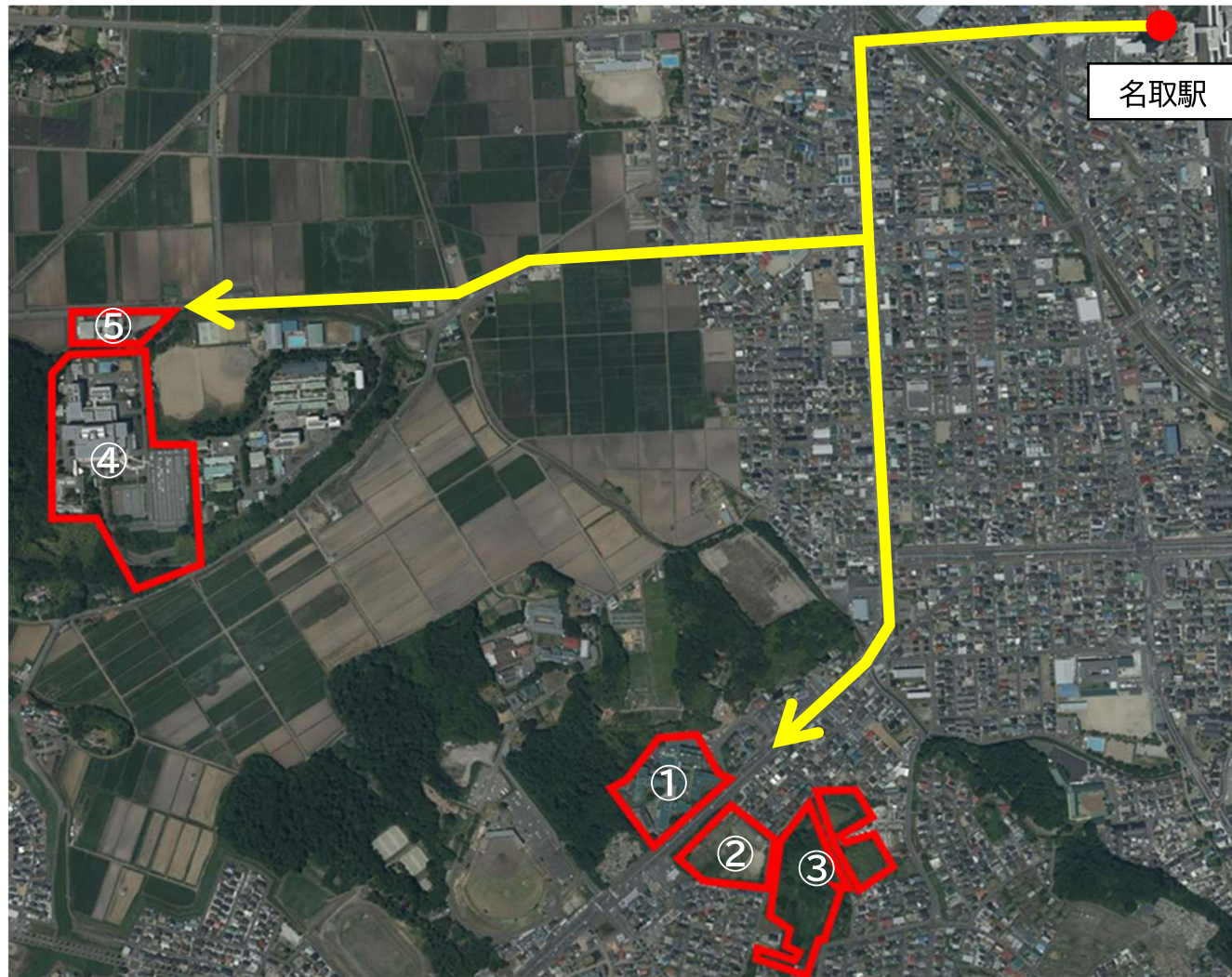
	①現精神医療センター 名取市手倉田字山180-1外	②精神医療センター グラウンド 名取市箱塚1丁目80-1外	③精神医療センター 作業地 名取市箱塚1丁目66-1外	④現がんセンター 名取市愛島塩手野田山47-1外	⑤旧高等看護学校 名取市愛島塩手字中田35-1外
航空写真					
敷地面積 (㎡)	22, 847	12, 991	31, 172	69, 290	6, 700
概要	現地で建替えを行う。 ※既存の医療提供体制を 継続しながら、建替え を行う。 ※一部民有地の買収・賃 借が必要	移転建替えを行う。 ※一部民有地の買収が必 要	移転建替えを行う。 ※一部民有地の買収が必 要	移転建替えを行う。 (a)案：駐車場に建替え (b)案：がんセンター解体後 の跡地に建替え (c)案：がんセンター本館を 利活用	移転建替えを行う。

地図出典：国土地理院地図

【上記候補地の選定に至った経緯】

- 平成28年にがんセンター西側山林への建替えを断念して以降、名取市内及びその周辺で候補地の検討を行ってきたが、適地を見出せていなかった。
- 令和元年「宮城県立精神医療センターの今後のあり方に関する報告書（以下「あり方報告書」という）」において、移転場所は早期建替えが可能であること、交通アクセスが良いこと、身体合併症対応のために一般病院との連携体制構築を勧奨すべき等が提言された。
- 政策医療の課題解決に向けて、令和3年9月から「仙台赤十字病院と県立がんセンターの統合」と「東北労災病院と県立精神医療センターの合築」という2つの枠組みで協議を開始し、本協議の過程において、富谷市から新病院の整備場所として同市明石台地区の提案があり、早期建替えが可能であるほか、公共交通手段も確保され、東北労災病院との合築が叶う土地であったことから、同地区での整備を前提に（独）労働者健康安全機構をはじめとする関係者と協議を行った。
- 富谷市への移転に関する当事者や県精神保健福祉審議会等からの様々な御意見を踏まえ、下記の状況の変遷を前提に柔軟かつ多角的な視点で対応案の検討を進めたところ、名取市内で県又は県立病院機構が所有する土地においても、建替え候補地として検討し得る可能性を見出した。
 - 患者需要の分析から平成28年計画時よりもダウンサイジングした病床規模が適当と判断した（要する敷地面積が縮小）
 - 仙台赤十字病院と県立がんセンター統合新病院の基本構想が策定されたことから、統合後のがんセンター敷地に利用可能性が生まれた
 - 県高等看護学校が閉校したことから、校舎解体後の高等看護学校敷地に利用可能性が生まれた

<参考> 建替え候補地の位置関係



地図出典：国土地理院地図

候補地		名取駅からの距離
①現精神医療センター	名取市手倉田字山180-1 外	約2.1km
②精神医療センターグラウンド	名取市箱塚1丁目80-1 外	約2.1km
③精神医療センター作業地	名取市箱塚1丁目66-1 外	約2.1km
④現がんセンター	名取市愛島塩手野田山47-1 外	約2.6km
⑤旧高等看護学校	名取市愛島塩手字中田35-1 外	約2.3km

建替え候補地の検討状況について

1 県及び県立精神医療センター職員による検討

日付	概要	主な検討内容等
4/8	精神医療センター施設見学	現病院における病棟などの各種施設を見学
5/19	新精神医療センター調整会議①	医療コンサルによる分析資料に基づき意見交換（候補地に係る詳細情報の確認）
6/17	新精神医療センター調整会議②	前回意見を踏まえた候補地詳細情報の更新（病棟イメージ図ほか）
7/29	新精神医療センター調整会議③	第1回精保審概要共有、各候補地における評価案・課題の整理及び検討の進め方の確認
9/1	新精神医療センター調整会議④	第2回精保審概要共有、各候補地における課題の改善策の検討（グラウンド車両経路、調剤薬局・社会資源の立地、候補地一体利用案ほか）
10/6	新精神医療センター調整会議⑤	各候補地における課題の改善策の検討（グラウンド車両経路、調剤薬局立地、SST、院内設備、一体利用案ほか）
10/22	薬剤部打合せ	がんセンター敷地の場合における調剤薬局の検討（顧客分散・調剤不安等について懸念を共有）
11/4	新精神医療センター調整会議⑥	類似解体・建設工事現場視察の調整
11/11	解体・建設工事現場視察	現地建替えにおける工事中の騒音等の影響を検討するため、病院類似の解体・建設工事現場を視察
11/28	新精神医療センター調整会議⑦	各候補地における課題の改善策の検討（調剤薬局立地、騒音等による療養環境への影響）、全体評価

※新精神医療センター調整会議：新病院整備に向けた各種協議を行うための県、精神医療センター及び県立病院機構本部の三者による会議体

2 県立精神医療センター院内の検討

日付	概要	主な検討内容等
6/2	新病院推進委員会①	患者アンケート内容及び作業方針に対する院内意見整理
7/11	新病院推進委員会②	建設候補地に関する懸念点及び建設候補地選定に当たって重視すべき事項についての院内意見整理
8/7	新病院推進委員会③	候補地の検討優先事項・評価素案に対する意見整理（県職員も参加）
9/25	新病院推進委員会④	建設候補地評価案の改善可能性について院内意見整理
11/10～14	解体現場視察対応	類似解体・建設工事現場視察及び視察職員向けアンケート実施

上記のほか、院長・幹部職員が出席する月1回程度の定例的な会議や部署毎等での検討多数

※新病院推進委員会：副院長以下の局部科長級職員で構成し、新病院建設に係る調査・検討や職員の意見集約を行う院内の会議体

3 アンケートによる意見聴取

日付	概要	主な検討内容等
7/1～7/31	患者アンケート	入院・外来・デイケア利用者2,125人が回答 ※調査項目：患者の通院手段、建替え場所の検討で重視すること等
8/1～8/31	全県アンケート	県内の精神障害者保健福祉手帳所持者約3,200人を対象としたアンケート（集計・分析中） ※調査項目：新病院に期待する医療機能等
10/31～11/14	医療機関アンケート	県内の精神科・心療内科を標榜する医療機関を対象としたアンケート（集計・分析中）
11/17～28	市町村・保健所アンケート	市町村・保健所を対象としたアンケート（集計・分析中）

主に建替え候補地・
医療機能の検討に活用

主に医療機能
の検討に活用

建替え候補地の比較・評価について

新精神医療センター調整会議において、候補地を比較するために検討が必要な事項と各候補地の現況を下記のとおり整理した。この整理表を基に行った各候補地の比較・評価の方法は次頁記載のとおり。

検討事項			候補地						
			①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
患者・病院職員の負担	通院・通勤環境	徒歩・自転車での通院	通院可	通院可	通院可	高低差あり	高低差あり	高低差あり	通院可
		道路のアクセス	良	幅員狭い	幅員狭い	良	良	良	良
		公共交通機関の運行状況	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	徒歩200mの 場所にバス停
		調剤薬局の立地 (最寄りまでの距離)	徒歩100m	徒歩150m	徒歩150m	徒歩1km	徒歩1km	徒歩1km	徒歩600m
		駐車場敷地の確保 (必要台数：310台)	約330台	約70台	約90台	約800台	約800台	約800台	約10台
	療養環境 (短期)	建替え工事に伴う騒音・ 振動等の影響	療養環境悪化	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない
	療養環境 (中長期)	商店等の社会資源の立地 (最寄りまでの距離)	徒歩500m	徒歩500m	徒歩500m	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.4km
	早期建替え	開院までの期間 (現病院の利用期間)	7.75年	7年	7年	8.75年	8年	5.75年	6年
事業・経営への影響	事業実施の 確実性	用地買収の可否	3,200㎡要	921㎡要	7,098㎡要	不要	不要	不要	不要
		住民理解の形成	形成済み	要理解形成 (関係住民多)	要理解形成 (関係住民多)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)
	経営上の 負担	建替えに係る総事業費 (減価償却費／年)	約152.5億円 (約3.9億円)	約136.3億円 (約3.5億円)	約149.5億円 (約3.8億円)	約134.3億円 (約3.4億円)	約137.6億円 (約3.5億円)	約114.4億円 (約4.8億円)	約132.1億円 (約3.4億円)
		ランニングコスト	低	低	低	低	低	高	低

建替え候補地の比較・評価方法について

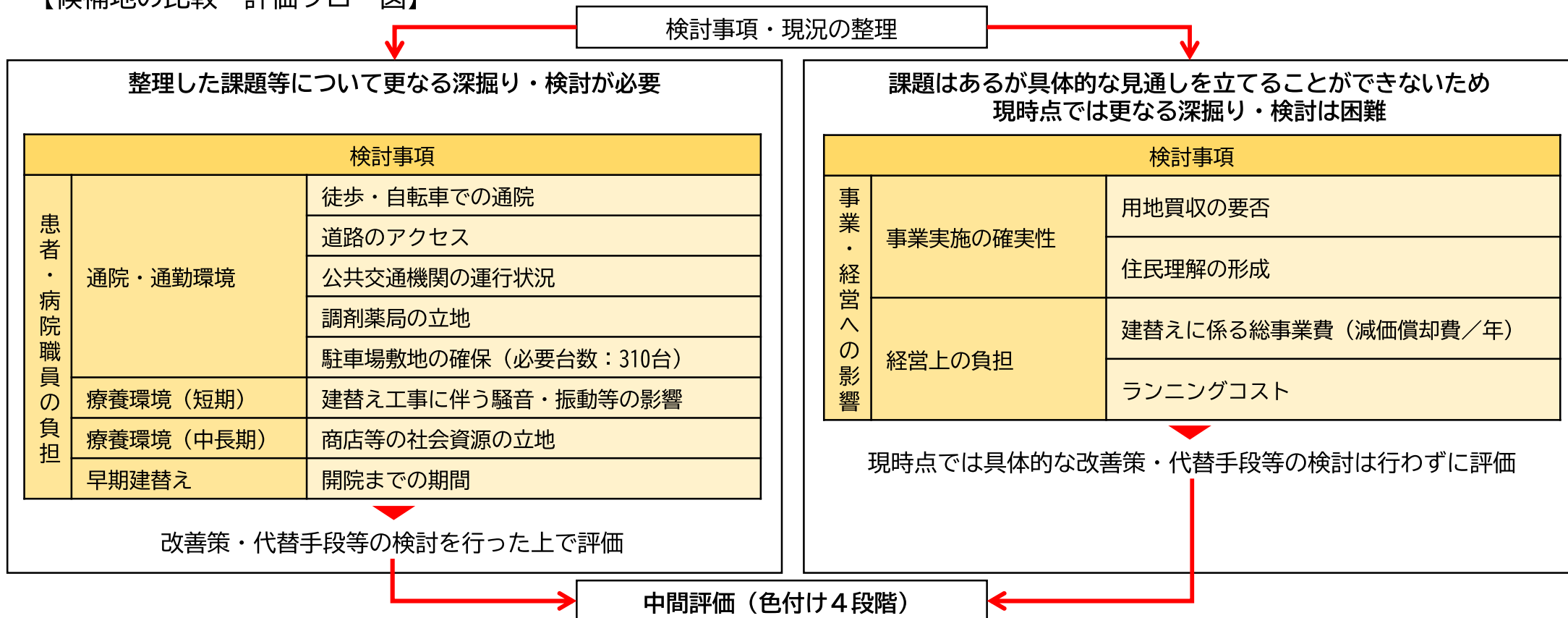
新精神医療センター調整会議において、候補地の比較表を基に候補地毎の課題等を整理し、その課題等について更なる深掘り・検討が必要な事項と、現時点では具体的な見通しを立てることができないため更なる深掘り・検討は困難な事項に大別した。

更なる深掘り・検討が必要な事項については、具体的な改善策・代替手段等の検討を行いながら、「患者・病院職員の負担」という観点により、白：考慮不要・負担極小、青：課題はあるが許容範囲内、赤：課題の改善可能性が低いため許容困難、黒：許容不可の4段階の色付けにより評価を行った。

更なる深掘り・検討が困難な事項については、「事業・経営への影響」という観点により、白：見通し可、青：見通しやや不透明、赤：見通し不透明、黒：許容不可の4段階の色付けにより評価を行った。

これらの評価を、建替え候補地の比較・検討における中間評価として位置付けた上で、当事者や審議会等の様々な関係者の御意見を踏まえながら、今後、建替え候補地決定に向けて更なる精査を進めていく。

【候補地の比較・評価フロー図】



建替え候補地の中間評価結果（更なる深掘り・検討が必要）

白：考慮不要・負担極小>青：課題はあるが許容範囲内>赤：課題の改善可能性が低いいため許容困難>黒：許容不可

検討事項				候補地						
				①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
患者・病院職員の負担	通院・通勤 環境	徒歩・自転車 での通院	評価	通院可	通院可	通院可	高低差あり	高低差あり	高低差あり	通院可
			意見	・ ④abcがんセンター敷地の高低差について、徒歩・自転車での通院に係る負担を懸念する意見があったが、患者アンケートの結果として、主な通院手段は自家用車や公共交通機関であったことを踏まえ、評価としては他の候補地と同列に「考慮不要・負担極小」と評価している。						
		道路の アクセス	評価	良	幅員狭い	幅員狭い	良	良	良	良
			意見	・ ②グラウンド及び③作業地については、県道仙台館腰線からの乗入れ口を設置したとしても、現在の道路状況では全ての車両を出入りさせることは困難であり、住宅密集地の周辺道路を利用せざるを得ない。 ・ 交通量増加に伴う騒音・振動等の増加のほか、渋滞の発生可能性や安全性の低下などを考慮すると、住宅密集地内の道路は救急・大型工事車両の頻繁な通行には不適である。 ・ 代替手段として、住宅密集地を回避する迂回路や乗入れに向けた県道仙台館腰線の道路改良工事、名取市による住宅密集地内の道路拡幅工事についても検討を行ったが、いずれも実施困難との結論に至ったことから、「許容困難」と評価している。【参考資料3】						
		公共交通機関 の運行状況	評価	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	徒歩200mの 場所にバス停
			意見	・ いずれの候補地においても、近傍に名取市営バスの停留所が設置されているため、同列に「考慮不要・負担極小」と評価している。 ・ なお、現行路線の維持については、現時点で減便・運行範囲縮小は予定されていないが、今後の利用状況等に応じて見直し・検討が行われる可能性があることを名取市に確認済み。【参考資料4】						
		調剤薬局の 立地	評価	徒歩100m	徒歩150m	徒歩150m	徒歩1km	徒歩1km	徒歩1km	徒歩600m
			意見	・ 調剤薬局の供給力（取扱い薬種量・在庫量など）は顧客（精神疾患患者）量に影響を受ける可能性が高く、安定的な調剤供給には一定程度の顧客見込みが必要である。 ・ 顧客が分散・低減すると供給力が下がる可能性が高いが、供給力の低い調剤薬局では処方の変更等を余儀なくされ、服薬治療に影響が生じる可能性がある（自立支援医療機関制度を利用する精神疾患患者は、処方内容に応じた調剤薬局の変更が困難）。また、公共交通機関を通院手段とする患者の移動の負担を考慮すると、調剤薬局は病院一名取駅間のバス路線上かつ停留所近傍に立地していることが重要である。 ・ ④abcがんセンター敷地・⑤旧高等看護学校跡地については、①現地よりも最寄りの既存調剤薬局までの距離が延伸するため、顧客分散に伴う安定供給を懸念する意見が挙げられたが、周辺の土地における調剤薬局の立地可能性を踏まえ「許容範囲内」と評価している。【参考資料5】【参考資料6】						

建替え候補地の中間評価結果（更なる深掘り・検討が必要） 2

白：考慮不要・負担極小＞青：課題はあるが許容範囲内＞赤：課題の改善可能性が低いいため許容困難＞黒：許容不可

検討事項				候補地						
				①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
患者・病院職員の負担	通院・通勤 環境	駐車場敷地の 確保（必要台 数：310台）	評価	約330台	約70台	約90台	約800台	約800台	約800台	約10台
			意見	<ul style="list-style-type: none"> 患者アンケート結果を見ると、自家用車での通院が中心であるほか駐車場の拡充を求める意見が多く、また、職員の通勤手段も自家用車が中心であることを踏まえると、敷地確保による駐車場の充実が求められる。 ②グラウンド及び③作業地における駐車場敷地を確保するため、グラウンド・作業地の一体利用を中心に検討を行ったが、高さ数十mの長大法面や急勾配の連絡道路の設置が必要になるほか、数十億円の追加工事費が生じる試算となったことから、「許容困難」と評価している。【参考資料7】 ⑤旧高等看護学校跡地については、敷地面積が非常に狭小であり、利便性の高い別敷地の確保可能性も極めて低いことから「許容不可」と評価している。 						
	療養環境 （短期）	建替え工事による騒音・振動等の影響	評価	療養環境悪化	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない
			意見	<ul style="list-style-type: none"> ①現地建替えの場合は、解体・建設工事による療養環境悪化が懸念されることから、騒音・振動等が患者に与える影響を評価するために、病院類似の解体・建設工事現場を視察した。 「工法・対策を工夫することで騒音・振動等が患者へ与える影響は限定的」と評価する意見がある一方で、「躯体・基礎・地下等の解体・建設工事に係る恒常的な騒音・振動等が患者へ与える影響が大きい」と評価する意見もあった。いずれも主観的な意見であるものの、評価に有用な客観的な情報も乏しいことから、「許容範囲内」と「許容困難」の両論併記により評価している。 なお、「許容範囲内」と評価する場合においても、可能な限り騒音・振動等を抑制する工法・対策を検討・実施することが前提となっている。【参考資料8】 						
	療養環境 （中長期）	商店等の社会 資源の立地	評価	徒歩500m	徒歩500m	徒歩500m	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.4km
			意見	<ul style="list-style-type: none"> 現状、入院患者が外出した際や社会生活技能訓練の一環として病院近傍の商店等を利用することがあり、建替え後においても近傍（徒歩圏内）に日常生活上誰もが利用する商店等がある方が望ましいが、訓練環境や病院生活維持機能は院内整備が基本であり、社会資源の立地等の周辺環境は可能な範囲で活用するものである。 将来的な周辺環境の変化等も踏まえると、いずれの候補地も商店等の社会資源までの距離は社会とのつながりを保つことができる程度であると判断し、同列に「考慮不要・負担極小」と評価している。【参考資料4】【参考資料9】【参考資料10】 						

建替え候補地の中間評価結果（更なる深掘り・検討が必要） 3

白：考慮不要・負担極小＞青：課題はあるが許容範囲内＞赤：課題の改善可能性が低いいため許容困難＞黒：許容不可

検討事項				候補地						
				①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
患者・病院職員の負担	早期建替え	開院までの期間（現病院の利用期間）	評価	7.75年	7年	7年	8.75年	8年	5.75年	6年
			意見	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化している現病院の状況を踏まえると、早期建替えの実現は当然に求められるものであるが、想定される開院までの期間に応じて現病院の利用の期間が前後することについて、実際に現場で働いているセンター職員の肌感覚やアンケート調査結果等を勘案すると、他の検討項目と比較して、その長短が候補地選定に与える影響は小さいとの判断のもと、いずれの候補地においても同列に「考慮不要・負担極小」と評価している。（※現時点で概算的に設定した期間であることから、候補地決定後には改めて精査が必要） なお、①現地、②グラウンド、③作業地、④aがんセンター駐車場における埋蔵文化財調査については、本調査の前に試掘・確認調査を行うこととなるが、その段階で一定の調査期間や経費が発生し、その算出には掘削位置や範囲、深さ等の情報が必要である。その後、試掘・確認調査の結果を踏まえ、本調査の要否の判断を行い、調査期間や経費を改めて算出することとなると名取市から回答を得ている（埋蔵規模により数ヶ月～数年・数千万～数億円となる可能性あり）。 						

建替え候補地の中間評価結果（現時点では深掘り・検討は困難）

白：見通し可＞青：見通しやや不透明＞赤：見通し不透明＞黒：許容不可

検討事項				候補地						
				①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
事業・経営への影響	事業実施の確実性	用地買収の要否	評価	3,200㎡要	921㎡要	7,098㎡要	不要	不要	不要	不要
		意見		・ ①現地、②グラウンド及び③作業地については、用地買収（賃借）が必要となり、現時点で用地交渉の成約を見通すことは困難であることから「見通し不透明」と評価している。						
	住民理解の形成	評価		形成済み	要理解形成 (関係住民多)	要理解形成 (関係住民多)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)	要理解形成 (関係住民少)
		意見		・ ②グラウンド及び③作業地については、住宅密集地に立地しており、病院立地だけでなく救急搬送による騒音等の発生や周辺道路の交通量増による安全性の低下等について理解を得る必要がある関係住民が多数存在することが想定されるが、現状では理解形成を見通すことが困難であることから、「見通し不透明」と評価している。 ・ ④abcがんセンター敷地及び⑤旧高等看護学校についても、現状では理解形成を見通すことは困難であるが、既にがんセンターが立地していたことを踏まえると、救急搬送に伴う騒音等が住民の生活環境に新たに大きな影響を及ぼす可能性は低く、また、②グラウンド及び③作業地と比較して関係住民は少ないことが想定されることから、「見通しやや不透明」と評価している。						
	経営上の負担	建替えに係る総事業費（減価償却費／年）	評価	約152.5億円 (約3.9億円)	約136.3億円 (約3.5億円)	約149.5億円 (約3.8億円)	約134.3億円 (約3.4億円)	約137.6億円 (約3.5億円)	約114.4億円 (約4.8億円)	約132.1億円 (約3.4億円)
			意見	・ ④cがんセンター本館利活用については、総事業費は比較的抑えられるものの、年度当たりの減価償却費で比較した場合には、最も高額となり経営上の負担が非常に大きくなることから「許容不可」と評価している。 ・ その他の候補地間では数千万程度の差異となるが、新病院の規模・医療機能が定まっていない現時点において、経営に与える影響を精緻に試算することは困難であることから同列に「見通しやや不透明」と評価している。 (※現時点で概算的に試算した事業費であることから、候補地決定後に改めて精査が必要)						
		ランニングコスト	評価	低	低	低	低	低	高	低
			意見	・ ④cがんセンター本館利活用については、総事業費は比較的抑えられるものの、他候補地と比較して老朽化に伴う改修・修繕費が発生する可能性が高く、高額かつ高頻度の改修・修繕費の発生が経営に与える影響は極めて大きいと想定されることから「許容不可」と評価している。						

建替え候補地の中間評価結果（総括表）

白：考慮不要・負担極小>青：課題はあるが許容範囲内>赤：課題の改善可能性が低いため許容困難>黒：許容不可

深掘り・検討を行った事項			候補地						
			①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
患者・病院職員の負担	通院・通勤 環境	徒歩・自転車での通院	通院可	通院可	通院可	高低差あり	高低差あり	高低差あり	通院可
		道路のアクセス	良	幅員狭い	幅員狭い	良	良	良	良
		公共交通機関の運行状況	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	徒歩200mの 場所にバス停	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	病院敷地内に バス乗り入れ	徒歩200mの 場所にバス停
		調剤薬局の立地	徒歩100m	徒歩150m	徒歩150m	徒歩1km	徒歩1km	徒歩1km	徒歩600m
		駐車場敷地の確保 （必要台数：310台）	約330台	約70台	約90台	約800台	約800台	約800台	約10台
	療養環境 （短期）	建替え工事に伴う騒音・ 振動等の影響	療養環境悪化	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない	影響しない
	療養環境 （中長期）	商店等の社会資源の 立地	徒歩500m	徒歩500m	徒歩500m	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.3km	徒歩1.4km
早期建替え		開院までの期間	7.75年	7年	7年	8.75年	8年	5.75年	6年

白：見通し可>青：見通しやや不透明>赤：見通し不透明>黒：許容不可

深掘り・検討は困難と判断した事項			候補地						
			①現地	②グラウンド	③作業地	④-a がんC 駐車場	④-b がんC 跡地	④-c がんC 本館利活用	⑤旧高等看護 学校
事業・経営への影響	事業実施の 確実性	用地買収の可否	3,200㎡要	921㎡要	7,098㎡要	不要	不要	不要	不要
		住民理解の形成	形成済み	要理解形成 （関係住民多）	要理解形成 （関係住民多）	要理解形成 （関係住民少）	要理解形成 （関係住民少）	要理解形成 （関係住民少）	要理解形成 （関係住民少）
	経営上の 負担	建替えに係る総事業費 （減価償却費／年）	約152.5億円 （約3.9億円）	約136.3億円 （約3.5億円）	約149.5億円 （約3.8億円）	約134.3億円 （約3.4億円）	約137.6億円 （約3.5億円）	約114.4億円 （約4.8億円）	約132.1億円 （約3.4億円）
		ランニングコスト	低	低	低	低	低	高	低